

## 事業所職員向け

## 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9			作業室を学童A学童Bに開放し、工作や作業をするための備品をそろえている。事業所全体の出入りがある程度自由にして、居場所を提供している。
	2	職員の配置数は適切であるか	9			子ども同士での関わりを見守ることによって、職員の手手が軽減されている。 適切だが、欠員が出ると支援が行き届かなくな
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	8	1		車いすの休日ファーム利用の方がいて、玄関等はバリアフリーであるが、車両、ベッドなどの充実が必要である。足に多少の麻痺があり歩行しづら いなかまもいて、今後車いすの設備が急がれる。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	9			年度初めに目標設定、半ば途中の面談、年度末に自己評価の面談をしている。時間が空くため、目標を忘れてしまいがちなので、視覚化が必要である
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9			義務化されているアンケートの実施以外に、なかまに向けてアンケートを行い、その結果を保護者にお渡ししている。活動の様子を理解して頂いていると思う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	9			毎年開示している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	8	1		第三者とは？という職員の声もある。外部評価とまではいかないが、年5回の理事会にて、事業報告を行い、その時の課題等について助言をいただいている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9			指導発達支援センターからの研修、近隣の放デイが主催する研修など実際に若い職員に行ってもらった。本事業所は毎年実践報告会を行い、毎月会議を継続して実践についての話し合いを行っている
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	9			今年度よりアセスメント票を特別支援教育の領域を使って独自で作成し進めている。非常に個の理解を深めることができた。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9			年に1回アセスメントを用いて子どもを評価することで、全体像の把握ができるようになり、職員間でも共有できた。担当者が年度初めに作成し他の職員と内容について共有している。

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	9		毎月の会議前に月予定を回覧で作成し、会議で合意を得てそれぞれの職員に企画書を作成して頂いている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7	2	様々な活動を計画しているが、室内での活動になると固定化されてしまう場合もある。 少人数での集団活動を行い、ニーズに応じてメンバーを決め、固定しないようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	9		半期に1回のペースで個別課題を変更し子どもたちとも共有して支援できている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	9		集団のくまっこのので、個別は少なめ。1対1が厳しい時もあるが、本人任せのことも多い。 小集団の活動で集団の関わりと個の課題が深まるようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9		担当者会も兼用し、毎日ミーティングを小一時間程度行い、欠席や送迎、活動の確認を丁寧にやっている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7	2	必要に応じて（伝達事項があるときなど）報告、相談、共有しているが、支援前のミーティングで共有している。 送迎で勤務時間を超えてしまうので、大事なこと以外は次の日のミーティングに回して職員の勤務時間を遵守している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9		記録を取っただけでは共有にならないので、ミーティングで振り返りを行い、課題解決、支援の共有を行っている。
	18	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	9		半期に1回必ず行い次の計画に活かしている。新しく利用を始めたなかまには、必要に応じてモニタリングを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	7	2	組み合わせているつもりだが、それでよいのか悩むところはある。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	9		児発管が主に参加しているが、次世代育成のために学童ABのチーフに参加して頂くこともある。

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	9			コロナ禍より良くなったように感じるが、いまだ学校との連携には難しさを感じる。 ケース会議に呼んでいただける学校もあるが、そうでない学校など学校の格差を強く感じる。 児童発達支援センターなどの会議に問題を投げかけたが、解決するためのルートがいまだ分からない。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		9		医ケアを受け入れたことが無いのでわからない。 てんかんや緊急時の対応は聞き取りを行っている。 今年「オレンジケアラボ」さんに職員研修で見学をさせてもらって、イメージを持つことができた。 園への見学はコロナ禍でも行ってきた。来年度のなかまの園にも見学を行った。園見学は必須と考えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8	1		残念ながら移行支援会議に放デイと呼ばれることはない。くまっこファームに移行するなかまの会議等には関わられた。相談員さんを通じて、課題の整理を行いお伝えしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8	1		研修を受けている。助言を直接受けてはいないが、児童発達支援センターの方が見学に来られるなど連携を図った。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	1		学童A（年齢がほぼ同じ）がトマト児童館との交流を再開することができた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	9			自立支援協議会は本事業所は居宅部会に参加している。 放デイとしては、児発管Mに参加している。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	9			半期に一度必ず面談を行い、アセスメントを基に新計画を立ててお伝えすると同時に、日頃のエピソード、年齢に応じた課題、それぞれの居場所での本人の見せる顔を確認している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	9			個人面談以外に、療育相談会や親の会の活動、夕涼み会など、参加して頂いている方に、ご家庭での背景をお聞きし、またこれまでの利用者たちの成長過程をお伝えするなどしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	9			運営規定や負担額については、契約時に説明し、随時玄関に掲示している。活動については、独自の行事の夏休みの夕涼み会や療育相談会にてスライドを使って保護者に説明する機会を持った。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9			

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9			半期に1回の面談時のみならず、お迎え時やお電話などで相談を受けることがあるが、これまでの経験でアドバイスしたり、相談員さんに伝えて悩みを共有して共に働きかけることができている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	9			くまっこ親の会の活動で、菊人形やカラオケ、海水浴などお出かけすることができた。また独自の行事の夏休みの夕涼みや療育相談会で保護者同士で話し合い解決する時間を設けている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9			苦情は管理者兼児発管が対応し、苦情処理のデータを職員会議等で共有している。謝罪等は施設長を含め迅速に対応（その日のうちに）している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	9			事業所全体の機関紙が年5回程度、毎月の学童通信、土曜日の通信を作成し、配布している。
	35	個人情報に十分注意しているか	9			契約時に写真、名前等の開示をお聞きし、外部に配布する場合は都度了解を得ている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9			必要事項はお便り、メール、TEL、口頭で連絡している。伝わっていない、忘れられることも多いので、対応策を考えたい。（保護者も困り感を持っている方が多い）
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	9			地域交流会、敬老会、お茶会、ハロウィン、畑の作物販売等、地域の方を巻き込んで行っている。地域の高齢化が進み、新規開拓が課題であるが、若い世帯は仕事をしているので難しい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	9			玄関に掲示しただけでは周知徹底できないので、年度頭にそれらのすべてを縮小版にして配布している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8	1		年に4回時期を決めて、火災、地震、水害、失踪訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	9			年2回の研修では外部講師を招いて、権利擁護について職員からの声を聞き取りながら進めている。日々の支援や一人一人の職員の価値観を揺さぶることに効果が出ている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6	3		マニュアルは作成してあるが、対象者がいないため職員への浸透は難しい。但し年度途中、強度行動障害の仲間を受け入れ、他害自傷時に押さえなければならぬ時があった。これについて今後行動を起こしたい。

42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6	3	対象者がいない アレルギーの子はいない 看護師が在籍している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	9		なかま達や職員のケガ、送迎ミスなど随時作成し、職員会議等で共有している。